

憲法からよむ政治思想史

高山裕二

担当編集から

政治学を学ぶ人こそ憲法を学ぶ必要がある、という著者の想いでこのテキストは生まれました。本書は日本国憲法の条文とその背景にある思想の歴史との関係に着目した西洋政治思想史のテキストです。

本書では、憲法条文と思想史のリンクを明示させながら思想史をよみ解いていきます。憲法で保障されている様々な人権や、憲法で定められた統治のしくみ、憲法でうたわれる平和主義などといった理念、これらはもちろん突然あらわれたのではなく、ロックやバジヨット、カントといった思想家たちが歴史的に紡ぎあげてきたものです。本書をよむことによって、思想史が現在の物語として、日本社会・政治を形づくる憲法とどうつながっているのか学ぶことができます。

憲法を学ぶ人こそ政治学を学ぶ必要がある、とまではいいませんが、本書についていえば、いちど憲法を学ばれた学生さんにもぜひ手にとっていただきたいと思います。現在の憲法学における解釈論・判例を支える根本にはどのような思想家たちの議論があったのか、遡って考えてみませんか。(岡山)

Point

歴史順の構成のため、各条文にある理念がいつ誕生したのか、その前後関係も理解しやすいです。

プロローグ

- 第1回 クルーソーと「近代」の物語
——政治思想史の課題と方法

第I部 内戦の時代(16・17世紀)

- 第2回 政教分離
——アウグスティヌスとマキアヴェリ
- 第3回 思想・良心の自由／信教の自由
——宗教戦争とモンテーニュ
- 第4回 主権／代表
——ホッブズと近代国家の作り方
- 第5回 基本的人権／議会
——ジョン・ロックと近代立憲主義の成立

第II部 イングランドの世紀(18世紀)

- 第6回 権力分立
——政治体制論の伝統とモンテスキュー
- 第7回 結社／二院制
——アメリカ独立革命とフェデラリスト
- 第8回 経済的自由／財産権
——スコットランド啓蒙思想とスミス



憲法からよむ 政治思想史

A History of Modern Political Thought

高山裕二
TAKAYAMA Yuji

立憲主義の 実践に 向けて

日本国憲法の条文を手がかりに、
その根底にある西洋の政治思想の
歴史に接近する

有斐閣

詳細を
見る



レベル	用途	対象
初級	学習 教養	学部 一般

2022年9月発売／312頁／定価2310円(税込)
四六判／並製

第III部 フランス革命の時代(18世紀)

- 第9回 生存権／憲法改正
——ジャン=ジャック・ルソーと人民主権
- 第10回 政党／代議制
——エドモンド・バークとフランス革命
- 第11回 自衛権／公務員
——カントとリアルな平和論

第IV部 〈民主化〉の時代(19世紀)

- 第12回 地方自治／陪審制
——トクヴィルと政治参加
- 第13回 平等／参政権
——ミルとフェミニズムの誕生
- 第14回 天皇制／議院内閣制
——バジヨットの英国国制論と「行政権」

エピローグ

- 第15回 労働社会の「人間らしさ」?
——ヨーロッパの世紀末と
政治思想史の役割

※本書が書かれるきっかけとなった本の1つとして
曾我部真裕 = 見平典編著「古典で読む憲法」(有
斐閣,2016年)があります。こちらもあわせてぜひ!

詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

